



藤枝市の家計と財産の概要

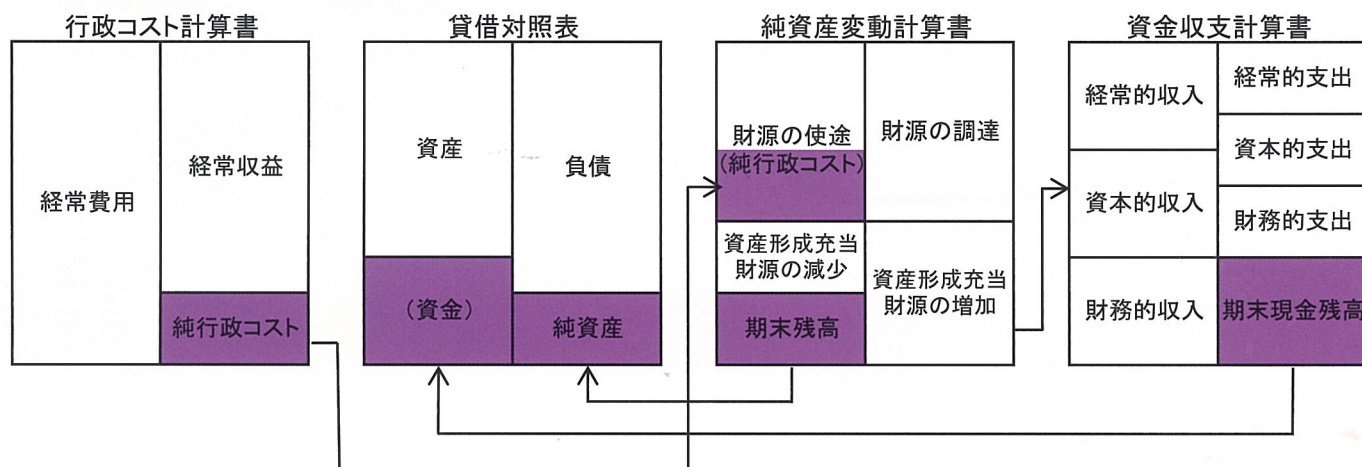
～公会計制度にみる藤枝市の平成24年度決算（簡易版）～

藤枝市では、公会計制度に基づき平成24年度決算における財務諸表を作成しました。これにより、藤枝市の資産状況や現金の流れなどの経営状況を知ることができます。また、財務諸表は民間企業でも作成しているため、民間企業との比較も可能になります。

4つの財務諸表とは・・・

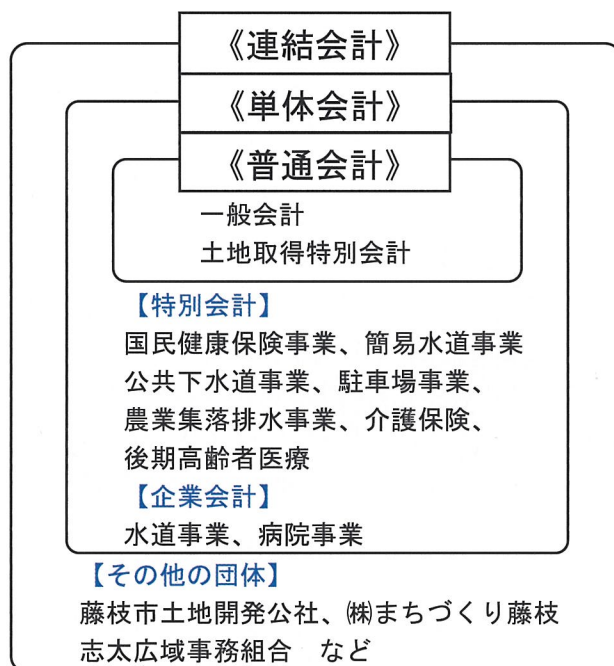
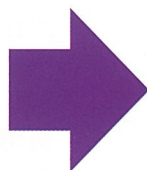
「行政コスト計算書」、「貸借対照表」、「純資産変動計算書」、「資金収支計算書」のことをいいます。民間の会社でも、それぞれ「損益計算書」、「貸借対照表」、「株主資本等変動計算書」「キャッシュ・フロー計算書」を作成しているので、民間と同じような4つの表を作成することにより、民間との比較が容易になるといわれています。

4つの財務諸表の関係図



藤枝市の公会計は、普通会計（一般会計・土地取得特別会計）と、9つの特別会計・企業会計（単体会計）のほか、8つの外郭団体（連結会計）からできています。ここでは主に単体会計での説明をします。

図解すると……



行政コスト計算書

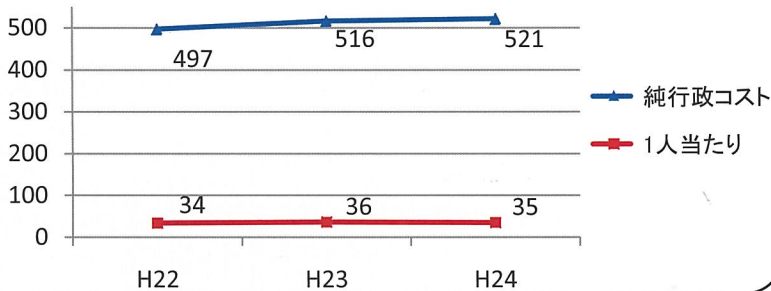
市が行う様々な事業によってかかった「費用」と、使用料や手数料などの「収入」を表します。

【単体会計】

(単位:億円)

科目	H24	H23	H22	H24-H23
経常費用	689	682	664	7
経常収益	168	166	167	2
純行政コスト	521	516	497	5
(1人当たり、万円)	(35)	(36)	(34)	(△1)

純行政コスト



<解説>

『経常費用』とは…

①人にかかるコスト

議員報酬・職員給与・退職給付引当金等

②物にかかるコスト

施設等の維持管理費・備品や消耗品の購入・減価償却費等

③移転支出的なコスト

子ども手当や団体等への補助金・社会保障費等

『経常収益』とは…

施設の使用料や様々な証明手数料等

『純行政コスト』とは…

経常費用を経常収益で賄えない部分

平成24年度も子ども手当などの移転支出的なコストが増えたため、前年度と比べて経常費用が7億円増加しました。

貸借対照表

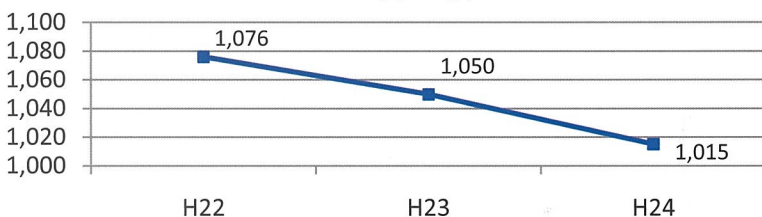
年度末の資産や負債、純資産を表します。

【単体会計】

(単位:億円)

科目	H24	H23	H22	H24-H23
資産	3,854	3,901	3,945	△47
負債	1,015	1,050	1,076	△35
純資産	2,839	2,851	2,869	△12

負債



<解説>

『純資産』とは…

道路や施設の建設や土地を購入した際に、これまでの世代が負担した経費

平成24年度も借金の返済が進んでいることで、負債が確実に減ってきています。平成22年度と比べると61億円もの負債が減っていることがわかります。

平成24年度は、3年毎の固定資産の再評価により資産は減少していますが、負債の4倍近い資産を保有しているため藤枝市財政の健全性が十分に確保されていることがわかります。

純資産変動計算書

1年間に純資産がどのように増減したかを表します。

【単体会計】

(単位:億円)

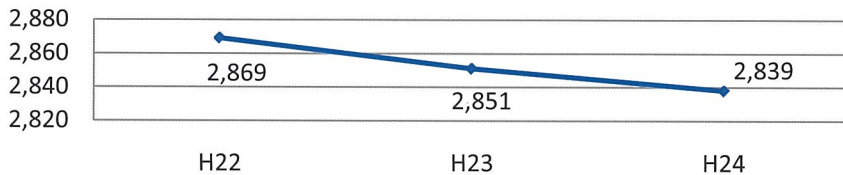
科目	H24	H23	H22	H24-H23
I 財源変動の部	39	9	16	30
II 資産形成充当財源変動の部	14	38	35	△24
III その他の純資産変動の部	△65	△65	△74	0
当期変動額合 (I+II+III)	△12	△18	△23	6
前期末純資産残高	2,851	2,869	2,892	△18
当期末純資産残高	2,839	2,851	2,869	△12

<解説>

『財源変動の部』とは…
財源をどこから(税収や国・
県補助金など)調達し、どのよう
に使われた(行政コストや出資金
など)かを表すもの
『資産形成充当財源変動の部』
とは…
固定資産や金融資産などの
増減を表すもの

平成24年度の純資産残高は、
固定資産の価値の見直し(固定
資産の評価替)等により**12億円**
の減少となりました。

当期末純資産残高



資金収支計算書

1年間の資金の動きを表したもので、どのような活動に資金を使ったかを表します。

【単体会計】

(単位:億円)

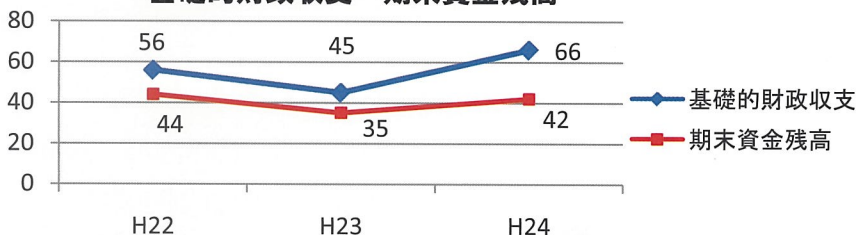
科目	H24	H23	H22	H24-H23
I 経常的収支	98	94	93	4
II 資本的収支	△32	△49	△37	17
基礎的財政収支 (I+II)	66	45	56	21
III 財務的収支	△59	△54	△40	△5
当期資金収支 (I+II+III)	7	△9	16	16
期首資金残高	35	44	28	△9
期末資金残高	42	35	44	7

<解説>

『経常的収支』とは…
市のサービスに係る経費(人件費や
消耗品など)と市税や国県からの
収入との差額
『資本的収支』とは…
固定資産や長期金融資産などの
支出と固定資産や長期金融資産
の売却・償還収入との差額
『財務的収支』とは…
支払利息や借入金の償還と
新たな借入との差額

平成24年度の基礎的財政収支は
プラス66億円となりました。
これは、行政サービスに係る費用を
新たな借金をせず、毎年の税収など
で賄えていることを表しています。

基礎的財政収支・期末資金残高



4つの財務諸表からわかること

- ・ 市民1人当りの資産と負債(平成25年3月31日現在の住民基本台帳人口146,214人)
単体会計ベース 資産：264万円 負債：69万円
普通会計ベース 資産：212万円 負債：40万円

- ・ 社会資本形成の世代間負担比率 [(地方債残高+未払金) / (非金融資産+投資等)]
単体会計ベース 25.4% (H23年度 26.0%)
普通会計ベース 17.1% (H23年度 17.6%)

「社会資本形成の世代間負担比率」とは、道路、河川、学校及び公園等の公共資産整備の財源が将来に返済義務がある負債(市債等)によって賄われている割合を表しており、この比率が低いほど、将来世代への負担が小さいこととなります。

また、この比率の平均値は15~40%といわれており、この点から藤枝市の財政状態が適正な水準にあることがわかります。

- ・ 純資産比率 [純資産 / 総資産]

単体会計ベース 73.7% (H23年度 73.1%)

普通会計ベース 81.4% (H23年度 80.9%)

純資産比率とは、総資産のうち過去及び現役世代の負担で整備された公共資産の割合を表しており、この比率が高いほど財政状態が安定しているといえます。一般的に市町村の普通会計ベースの平均値は60~70%といわれており、本市の比率は81.4%であるため、この点から藤枝市の財政状態は健全であるといえます。

また、純資産比率は、民間企業の財務分析における自己資本比率(企業の安定性を図る指標)に相当するものであり、民間企業では自己資本比率が70%以上であれば理想企業といわれています。

まとめ

公会計にはいくつかの基準があり、平成24年度の藤枝市の経営状況を本市と同じ基準の約100団体と比べるとほぼ中位にあり、比較した指標等からも「**健全な財政状態**」を保っています。

公会計についてもっと詳しく知りたい方は詳細版の資料もありますので、是非ご覧下さい。

【藤枝市ホームページ】

<http://www.city.fujieda.shizuoka.jp>

「藤枝市の財政」- 公会計

藤枝市役所 企画財政部財政課

〒426-8722

静岡県藤枝市岡出山1-11-1

電話：054-643-3234 FAX：054-643-3604

E-mail：zaisei@city.fujieda.shizuoka.jp